

団結してコロナ危機を乗り越えよう！



2022年度運動方針を確立 第48回 定期大会

2021年10月17日、本社棟2階会議室において第48回定期大会が開催されました。今大会は新型コロナウイルス感染症予防対策として参加人数を制限し、出席者名、委任状通により大会が成立していることが確認されました。議長には5002鈴木正徳氏、書記には2606石井貴也氏が選任され、「2021年度活動報告」「2020

22年度運動方針案」「規約変更案」「会計予算案」その他「役員候補の補充について」の議案を審議し、全て承認されました。続いて、定年功労者表彰・クラブポイント補助金の授与が行われ、今年の8月に行われた役員改選で信任された役員も加わり、新執行部体制としての決意を述べ、第47期がスタートしました。

2022年度運動方針

- 1、公共交通としてのタクシーを守る制度・政策実現の闘い
- 2、東洋交通における賃金・労働条件の改善と要求の闘い
- 3、組織強化と拡大の闘い
- 4、法対活動の強化
- 5、安全マネジメント活動への取り組みの強化
- 6、文体活動を通じた帰属意識を高める運動
- 7、カンパ活動を通じた助け合い・支え合いの強化

菊池執行委員長の挨拶



新型コロナウイルスの影響でタクシー産業は全国的に事業継続が困難な状況に陥りました。緊急事態宣言下においても公共交通として営業を継続した結果、多くの事業者は倒産・廃業に追い込まれ、多額の融資でしのいでいるのが実態です。雇用調整助成金制度が縮減し、利用者が増えぬまま稼働台数を戻せば現状は悪化し、タクシー労働者の命と生活は守られません。需要に見合う適正な供給を行わせる政策を実現することが大切です。

●命と生活を守るために

新型コロナウイルスの影響でタクシー産業は全国的に事業継続が困難な状況に陥りました。緊急事態宣言下においても公共交通として営業を継続した結果、多くの事業者は倒産・廃業に追い込まれ、多額の融資でしのいでいるのが実態です。雇用調整助成金制度が縮減し、利用者が増えぬまま稼働台数を戻せば現状は悪化し、タクシー労働者の命と生活は守られません。需要に見合う適正な供給を行わせる政策を実現することが大切です。

●公共交通として役割を果たそう！

東京五輪に向けて「ライドシェア導入」の動きが加速されてきました。新型コロナウイルスの影響で導入・解禁の動きは弱まり、世界中でライドシェア事業の経営を極度に悪化させています。しかし、規制改革推進会議などは、ポストコロナを見据え、依然として解禁を狙っています。公共交通のほころびを逆手に取られぬよう警戒を強め、引き続き公共交通機関としての役割を果たしていきましょう。

●利権優先の政権と決別しよう！

安倍政権は「GoToキャンペーン」を開始し、無責任に総理大臣を辞任。菅政権になっても積極的にそれを推進した結果、地方都市まで新型コロナウイルス感染が拡大しました。更に、利権にまみれた五輪開催に付度した政権が「命よりも五輪」で突き進んだ結果、医療崩壊の危機を招き、救えなはずの国民の命を奪い去りました。コロナ危機以前から不安定雇用を増大させ、医療・福祉政策を削り、格差を拡大してきました。憲法を無視し、政治を私物化した。国民の命と暮らしを蔑ろにする政権とは本気で決別すべき時です。国民が安心して暮らせる日本を取り戻す為、政権交代を実現しましょう！

●働き続けたい東洋交通を目指そう！

2020年、労使にとって公共交通機関としての事業継続と社員の賃金労働条件を維持し、社員と乗客を感染リスクから守ることが最優先の課題でした。2019年の実績には及ばぬものの、台当たり営収は都内平均を大幅に上回る実績となりました。その後乗務員の退社が止まらず、稼働人員・稼働台数は瞬く間に落ち、減収減益を現在も辿っています。そんな中、2020秋闘では精力的に交渉を重ね、要求通りの出番表、法律を上回る育児・介護規定を勝ち取り、2021春闘ではフリードリバリーの実車キロ反映、嘱託乗務員の基本給の賃金格差撤廃、労働組合へ解決一時金13,546,000円という回答を得ることができました。2021秋闘・2022春闘では組合員が働き続けたい会社づくりを課題とする闘いになります。それを実現するには組織の団結力と拡大が必要です。今後も組合員の皆様の組合活動へのご理解と、一層のご協力をお願いします。

定年功労者表彰・クラブポイント補助金授与



**コロナに負けず公共交通機関として責務を果たす
我々の賃金労働条件改善に向けて
団結してガンバロー!!**

署名活動や動員など、組合活動に協力したクラブにクラブポイント・補助金の授与が行われました。新型コロナウイルスの影響で大会やミーティングなどの開催が中止となりましたが2022年度は積極的に組合活動に参加しクラブポイントを勝ち取るう!

- 定年功労者
- 2174 諸根俊彦氏
 - 5187 西澤秀幸氏
 - 5823 西山博美氏
- 3名が表彰されました

全自交労連 第79回定期大会

団結回復大会として記念すべき盛岡大会が実現!



2021年10月19日、20日、いわて県民情報交流センター(アイーナ)において第79回定期大会が開催されました。

岩手地方本部では10年前に結成50周年記念行事として第67回定期大会を盛岡に誘致し開催しましたが、当時の東京地連が離脱するという大波乱の大会となりました。その後KPUを結成し、別々の取り組みで運動を進めてきましたが、今年の5月31日の臨時大会において歴史的統合を果たし、全国最大規模のハイタク労働団体として再集結した「団結回復大会」として、伊藤実委員長と元KPUの岩手・盛岡大会の開催が実現しました。

5期10年委員長を務めた伊藤実氏が退任となり、新委員長には東京地連の前委員長である溝上泰央氏が就任しました。「長期にわたるコロナ

禍といった中で、タクシー産業自体が疲弊している。この時代に重責を担うことは大きな不安でいっぱいという心境。この10年間重責を担ってこられた伊藤実委員長をはじめ、これまで全自交をけん引してきた5人の諸先輩方が退任されることも不安の要素であるが、関東において昔の仲間に戻ってきたこと、組織を確立できたこと、心強い。新生・全自交労連として、全国の仲間を守らずに全国組織にあらずという気持ちで運動を進めていく」と決意の一端を述べました。

**全自交労連第49回
機関紙コンクール**

東洋交通労働組合
『躍進』 佳作
『U-LINK』 敢闘賞

毎年行われる機関紙コンクールで東洋の機関紙は佳作・敢闘賞となりました。最優秀賞を目指し今後はいよいよ読みやすい内容をお伝えしていきます!

● 団結力を発揮し長期化するコロナ危機を乗り越えよう!
● 「交通破壊」を阻止し、雇用と賃金を守り抜こう!
● ライドシェア導入反対!
● タクシーを地域交通の主力として位置づけさせ支援策の充実を国・自治体に求めよう!
● スローガンとし、命と雇用を守り労働条件を維持、改善する取り組み、政治課題の取り組み、組織拡大・強化に向けた取り組み、ジェンダー平等推進計画、労働者自主福祉運動などについて活動していくことが確立されました。

- ライドシェア白タク合法化阻止
 - 適正化・活性化の推進
 - 組織拡大の実現
 - 制度・政策要求の実現
 - 新型コロナウイルス感染拡大への対策
- の5項目を柱にした2021年度の運動方針を確立しました。任期満了に伴い、藤野委員長

統合後初の地連大会としてさらに団結を強化し、将来を見据えた運動を展開しよう!

10月29日、全電通会館において全自交東京地連第124回定期大会が開催されました。役員、代議員など役130名が出席し、



全自交東京地連 第124回定期大会

佐藤正男副委員長、伊藤実顧問ら6名が退任となり、新委員長には三須一隆氏(京自労委員長)が選任されました。

三須委員長は「一番厳しい時期に大任を受けさせていただいた。全自交労連の中核組織として東京地連は運動をしていかなければならない。役員、皆さんの力を借りながらハイタクの乗務員が働いて生活していける、公共交通機関として信頼される大きな組織、大きな運動をつくっていききたい」と決意を述べました。

来賓には全自交労連の溝上泰央委員長を始め、地連の伊藤実顧問、組織統合を仲介した連合東京の杉浦会長、東京共同法律事務所長の山口弁護士らが出席し、溝上委員長は「東京地連のけん引なくして新生・全自交労連は前進しない」と、さらなる団結を訴えました。伊藤顧問は「統合によって大きな塊になったことは今後の運動の大きな力になる」とエールをおくり、山口弁護士は「統合して全国組織として大きな塊になったことは国交省などに対するパワーが違ってくる。ハイタクはターニングポイントにあると思うが、合併をテコにして今後のタクシー業界を考える大きな力を得た。組合運動で難しいのは都市部の組合員の思いと地方の乗務員の思いをどのように統一し、タクシー業界としての労働運動をつくりあげていくかだ。東京地連はその先頭になって闘ってほしい」と述べました。